

フジ・メディア・ホールディングス

レポート

株主の皆様へ

第69期 中間報告書 平成21年4月1日から平成21年9月30日まで



Top Message



代表取締役会長
(Chairman & CEO)

日枝 久

代表取締役社長
(President & COO)

豊田 皓

「磐石なトップ・メディア・グループへ」

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。日頃は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社は、昨年10月1日に放送法に定める認定放送持株会社「株式会社フジ・メディア・ホールディングス」となり、新たなグループ経営体制へ移行して、お陰様で1年を迎えることができました。その間、世界同時不況に見舞われ広告市況が悪化し、当社グループにとっては厳しい事業環境が続きました。そのような中、グループのガバナンスを強化して、各社におけるコスト管理を徹底して収益体質を改善し、グループ内での事業連動を推進しながら、事業基盤の強化と収益性の向上を図ってまいりました。

2期目となってさらに、国内外から高く評価される「我が国を代表するメディア・コングロマリットを目指す」という

長期的なグループ経営ビジョンの実現に邁進してまいります。テレビメディアに代わるマスメディアの存在はなく、今後ともその絶対的な価値は、広告媒体としても娯楽・報道メディアとしても不変であると思っております。新しいメディアの出現による外部環境の変化や、生活者のライフスタイルの変化などを的確に捉える不断の努力を怠らず、その媒体価値を維持・向上して、メディア・グループとしてトップの地位を磐石なものにしてまいります。そして、あらゆる事業環境の変化にも即応し、持続的かつ安定的な成長を遂げられるよう、更なるグループ企業価値の向上を図り、株主の皆様のご期待に応えるべく努めてまいります。

何卒、これからも当社グループに対して倍旧のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年12月

Contents

Top Message	・ 1
Top Interview	・ 2
Fuji Media Holdings Outline	・ 5
CSR通信 Vol.6	・ 11
特集：彫刻の森美術館 40周年	・ 12
連結財務諸表	・ 13
主要各社業績	・ 15
会社概況	・ 16
株主メモ	・ 17
株式情報	・ 18

フジネットワーク 28局

UHB	北海道文化放送(株)
MIT	(株)岩手めんこいテレビ(株)仙台放送
AKT	秋田テレビ(株)
SAY	(株)さくらんぼテレビジョン
FTV	福島テレビ(株)
(株)フジテレビジョン	
NST	(株)新潟総合テレビ

NBS	(株)長野放送
SUT	(株)テレビ静岡
BBT	富山テレビ放送(株)
ITC	石川テレビ放送(株)
FTB	福井テレビジョン放送(株)
THK	東海テレビ放送(株)
KTV	関西テレビ放送(株)
TSK	山陰中央テレビジョン放送(株)
OHK	岡山放送(株)
TSS	(株)テレビ新広島

EBC	(株)テレビ愛媛
KSS	高知さんさんテレビ(株)
TNC	(株)テレビ西日本
STS	(株)サガテレビ
KTN	(株)テレビ長崎
TKU	(株)テレビ熊本
TOS	(株)テレビ大分
UMK	(株)テレビ宮崎
KTS	鹿児島テレビ放送(株)
OTV	沖縄テレビ放送(株)



トップが語るフジ・メディア・ホールディングス

Top Interview

代表取締役社長 荒田 皓

2010年3月期上期の業績の概要をご説明ください。

当上期も、厳しい景気動向の中、スポンサー企業の多くで業績の回復が本格的ではなく、個人消費も活発にはなりません。そのため、広告出稿の総量が拡大せず、放送メディア広告収入の比重が高い当社グループにとりましては、大変厳しい事業環境でした。

このような中において、当上期の業績は、生活情報事業と広告事業において連結子会社が増えて増収となりました。しかし、主力の放送事業の減収が大きく、連結売上高は前年同期比0.4%減収の2,807億74百万円となりました。営業利益は放送事業が減益、生活情報事業と広告事業が営業損失となったことなどが影響して、前年同期比78.3%減益の27億38百万円、経常利益は前年同期比70.2%減益の45億90百万円、当上期の純利益は前年同期比46.6%減益の30億23百万円となりました。

昨年10月に、当社を株式会社とするグループ経営体制へ移行して以来、グループ全体において、従来に増して費用の効率的運用を徹底し収益体質の強化をはかるとともに、グループ内事業連動を推進してまいりました。主力の(株)フジテレビジョンは厳しい広告市況の中で足踏みが続いています。また、(株)ディノスは上期では4年ぶりの黒字となり、(株)扶桑社は赤字を大幅に減らすなど、着実に経営課題を解決しつつあると考えています。

	売上高			営業利益又は営業損失(△)		
	前第2四半期 連結会計期間 (百万円)	当第2四半期 連結会計期間 (百万円)	増減(%)	前第2四半期 連結会計期間 (百万円)	当第2四半期 連結会計期間 (百万円)	増減(%)
放送事業	187,294	173,964	△7.1%	11,177	3,362	△69.9%
制作事業	23,951	21,899	△8.6%	1,284	925	△27.9%
映像音楽事業	34,613	31,954	△7.7%	1,369	188	△86.2%
生活情報事業	39,485	49,256	24.7%	△537	△521	—
広告事業	15,018	22,167	47.6%	△170	△119	—
その他事業	16,351	14,658	△10.4%	140	69	△50.2%
消去又は全社	(34,740)	(33,127)	—	(621)	(1,168)	—
合計	281,975	280,774	△0.4%	12,641	2,738	△78.3%



各事業セグメント別の業績は いかがでしたか。

●放送事業

(株)フジテレビジョンは、イベント事業が「コルテオ」の好調により、映画事業が「アマルフィ 女神の報酬」のヒットなどによって、その他事業収入が増収となりましたが、厳しい広告市況を反映して放送収入の減収が大きく、売上高は減収となりました。番組制作費や一般管理費などの費用を圧縮しましたが、減収分を補うには至らず営業利益は減益となりました。(株)ニッポン放送も、放送収入が減少する中、コストダウンの徹底に努めたものの減収減益となりました。

●制作事業

厳しい受注環境の中で、各社とも売上拡大と費用圧縮による収益の確保に努めましたが、番組制作の受注が減少したことなどにより減収減益となりました。

●映像音楽事業

(株)ポニーキャニオンの音楽部門は、つるの剛士の「つるのうた」や「つるのおと」などのヒットはありましたが、前期のaikoや羞恥心などには及ばず減収。映像部門も「ドラゴンボール」シリーズを超えるヒットがなく減収となり、全体として減収減益となりました。(株)フジパシフィック音楽出版も、著作権部門、原盤部門ともに減収となり、映像音楽事業全体で減収減益となりました。

●生活情報事業

(株)ディノスは消費の低迷による厳しい環境の中、テレビ通販事業が好調でしたがカタログ通販が落ち込み、全体として減収

となりました。しかし通販経費などの削減により黒字を確保しました。(株)サンケイリビング新聞社は主力の「リビング新聞」等の広告収入の落ち込みで営業損失となりました。当期より連結子会社となった(株)セシールは原価率の低減、経費削減に努めましたが、カタログ通販を中心とした売上の低迷で営業損失となりました。生活情報事業全体としては増収営業損失となりました。

●広告事業

(株)クオラスは、広告取扱高やイベント受託収入が増加して増収、経費削減も反映し営業損失が縮小しました。当期より連結子会社となった協同広告(株)は、厳しい広告市況の影響を受けたことなどで営業損失となりました。広告事業全体としては増収営業損失となりました。

●その他事業

(株)フジミックはシステム開発受注や機器販売が低調で減収減益となりました。昨年多額の営業損失を計上した(株)扶桑社は、制作体制の効率化を図るとともに「アマルフィ 女神の報酬」の原作や「笑っていいとも！」の連動企画が好調に推移し、営業損失の大幅な縮小を実現しました。

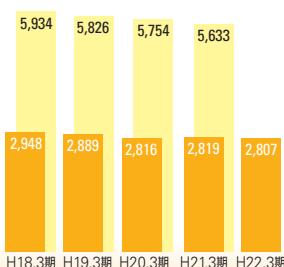
主力の(株)フジテレビジョンの業績を 詳しくご説明ください。

(株)フジテレビジョンの当上期の業績は、売上高は6.9%減収の1,639億18百万円、営業利益は69.8%減益の31億19百万円となりました。

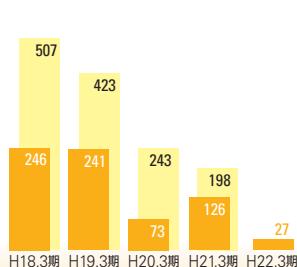
放送収入は、広告市況の厳しさを反映して前年同期比11.2%減の大幅な減収となりました。そのうちネットタイムセールス

Financial Highlights 連結財務ハイライト

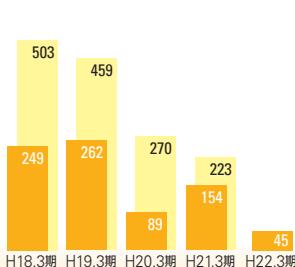
売上高 (億円)



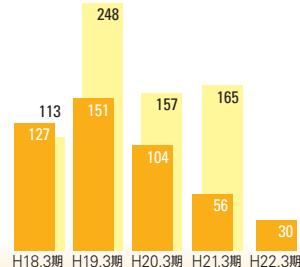
営業利益 (億円)



経常利益 (億円)



当期純利益 (億円)





は、前年度の「北京五輪」「北京五輪バレー世界最終予選」の反動などや、レギュラー番組の料金水準の低下もあり、前年同期比11.2%の減収、ローカルタイムセールスも17.1%の減収となりました。スポットセールスも、厳しい状況が続き、第2四半期になって減収幅が小さくなり改善の兆しを見せてはいるものの、当上期全体では前年同期比10.1%の減収となりました。

一方、放送事業原価の多くを占める番組制作費については、番組コンテンツの質の維持・向上に努めながら着実にコントロールを進め、前年同期比で2.1%削減しました。結果として当上期も番組視聴率トップを堅持し、6年連続の上期「三冠王」を達成することができました。

その他事業は、イベント事業では「コルテオ」が東京、名古屋、大阪で大好評を博し、映画事業も「剣岳 点の記」「アマルフィ 女神の報酬」の興行が好調で増収となりました。ビデオ事業は、「Dr. スランプ」「メイちゃんの執事」などがありましたが、前年の「ドラゴンボール」シリーズのような作品がなく減収となりました。その他事業全体では、前年同期比13.0%の増収となりました。ただし、その他事業原価は収入に応じて増加し、前年同期比15.6%増となりました。

また販売費及び一般管理費については、放送収入の減少に伴い代理店手数料が減少したほか、費用全般の効率運用を徹底し、収益の確保に努めました。

今期(2010年3月期)の業績見通しをご説明ください。

今期の業績は、連結売上高5,810億円、営業利益66億円、経

常利益98億円、当期純利益54億円の増収減益を見込んでおります。

主力である放送事業において(株)フジテレビジョンが減収減益を予想していることを反映しております。ネットタイムセールスを中心に、引き続き厳しい状況が続くと予想しております。スポットセールスもようやく回復の兆しが見えてきましたが、まだ決して楽観できる状況ではないと考えております。一方、その他事業部門ではイベント事業は「コルテオ」が下期も大変好調に推移しており、11月から始まった東京凱旋公演で総動員数100万人を超える驚異的な成績を上げています。映画事業では「のだめカンタービレ最終楽章前編」「ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ」を始めとする作品の公開が予定されておりますので、その他事業の増収と収益への貢献を期待しております。

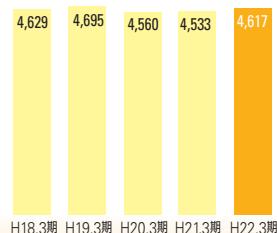
主要子会社のうち、(株)ディノスは、テレビ通販とともに成長分野であるインターネット通販事業をさらに強化しながら、費用コントロールを引き続き徹底し、安定的に利益を確保してまいります。(株)セシールは、主力のファッションについて新商品を投入し売上拡大を図る予定です。(株)ポニーキャニオンは、DVD市場が縮小基調にありますが、音楽作品、映像作品のラインナップ強化を図ります。また、(株)扶桑社は、編集費等のコスト削減や効率的な人事組織による人件費の大幅な削減等の費用の圧縮を始め、様々な業務改善策を断行することで、今期は通期で大幅な営業損失の縮小を見込んでおります。

今期、当社グループ子会社は各社とも厳しい事業環境が想定されますが、引き続き費用の合理的運用による体質強化、収益性の向上に努め、グループ内事業連動を積極的に推進してまいります。

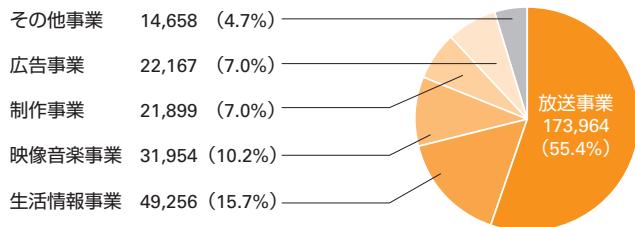
総資産 (億円)



純資産 (億円)



セグメント別売上高 (百万円) ※ () は構成比



Fuji Media Holdings Outline

フジ・メディア・ホールディングス アウトライン

認定放送持株会社フジ・メディア・ホールディングスグループは、6グループ20社の中核子会社で構成されています。また、フジ・メディア・ホールディングスは事業面で緊密な関係を有する関連会社を始めフジサンケイグループ各社と事業・文化活動においてさらに連携を強めてまいります。

【グループ組織概略図】



TV Program テレビ番組

[Drama] ドラマ

本年度上期もフジテレビドラマは他局を圧倒！話題作を次々に送り出しました。

スタイリッシュな新しい警察ドラマ「BOSS」は最高視聴率20.7%の大ヒット。救急医療の危機というシリアスなテーマに挑んだ「救命病棟24時」は、平均19.2%という驚異のハイアベレージを記録。また「任侠ヘルパー」では、任侠道と老人介護という全く対極にあるテーマを融合させ、社会派エンタテインメントドラマとして話題を集めました。

ドラマ不況なんてどこ吹く風。フジテレビドラマはこれからも独走し続けます！



「BOSS」



「FNSの日26時間テレビ2009 超笑顔パレード」

[Variety] バラエティ

7月25・26日に行われた「FNSの日26時間テレビ2009 超笑顔パレード」は島田紳助率いる「ヘキサゴンファミリー」が「笑っていいとも!」「ネプリーグ」「HEY! HEY! HEY!」「ペケポン」「VS嵐」等の人気番組と夢のコラボを実現しました。

また「三輪車12時間耐久レース」では、FNS27局の挑戦者がそれぞれの思いを込め、懸命にペダルを踏む姿は真直ぐで見ている者を熱くさせてくれました。

夏のイベント「お台場合衆国」の、「めっちゃ畑牧場」「はねるのトびらエリア」では連日大勢のお客様に楽しんでいただき、大盛況でした。

[Life Information] 情報

「めざましテレビ」「とくダネ!」は、日々のニュースはもちろんのこと、暮らしに深く関わる問題から、生活を明るく豊かにしてくれる楽しい話題まで、幅広いテーマを取り上げる、日本の朝を代表する情報番組です。

「とくダネ!」は、医療、教育、環境といった重要なテーマを先取りして、広く世の中に投げかけてきたことが高く評価され、8年連続視聴率トップという記録を更新中です。

「めざましテレビ」は、中高生からお年寄りまで、幅広い層から支持され、高視聴率を記録するだけでなく、音楽やエンタテインメントの世界において大きな発信力、影響力を持っており、「お台場合衆国」などのイベントや全社挙げてのプロジェクトなどへの貢献は、計り知れないものがあります。

また「どーも☆キニナル!」は番組内で連動しているディノスの売上大幅増に大きく貢献しました。

『めざましテレビ』



[News] 報道



「FNNスーパーニュース」

「FNNスーパーニュース」は夕方のニュース激戦区で視聴率首位をキープ、8年連続トップを目指します。4月の北朝鮮ミサイル発射時にはFNN系列局が結束して報道特番を放送、民放第1位の視聴率を獲得したほか、5月の新型インフ

ルエンザ報道でも国内初感染の情報を独自に入手、速報するなど国民の生命、安全に関わるニュースを総力で報道、高い声価を得ました。総選挙特番では当確情報などに誤報もなく、正確な報道で政権交代という新たな時代の幕開けをリアルに伝えました。

定評のあるドキュメントドラマでは「戦場のなでしこ隊」が平成21年度日本民間放送連盟賞テレビ報道番組部門優秀賞を受賞、比モンテンパ刑務所の戦犯救出秘話を描いた「戦場のメロディ」も高い評価を得ました。

[Sports] スポーツ

「世界フィギュアスケート選手権」、「F1グランプリ」、「柔道世界選手権」、「UEFAチャンピオンズリーグ」、「バレーボールワールドグランプリ」などに加え、新たに「世界体操選手権」の放送もスタート。世界レベルのスポーツの“感動”と“興奮”の瞬間を視聴者へ伝え続けています。さらに9月のフジサンケイクラシックでは石川遼選手の完全優勝の瞬間を中継し、12.9%という、同大会37回の歴史の中で最高視聴率を記録しました。



「37th フジサンケイクラシック」

またレギュラー番組の「すぽると!」はデイリースポーツニュース番組として、「ジャンクSPORTS」はスポーツバラエティ番組としてそれぞれ他局にはない人気を獲得しています。

CS CS放送

CS放送は、4月1日に「フジテレビ ONE・TWO・NEXT」を開局。最強の総合エンタテインメントチャンネルとなって本格的HD3チャンネル体制をスタートしました。

「マイケル・ジャクソン追悼式」を緊急放送、「ゲームセンターCX」24時間生放送、「2009 F1 日本グランプリ」全セッションをフルハイビジョン&5.1chサラウンド放送、33年ぶりフォークの聖地での「アリス再始動 179歳の神田共立講堂」を生放送、日本最大級のロックフェスティバル「FUJI ROCK FESTIVAL'09」を15時間放送する等、次々話題のコンテンツをお届けしました。



「ゲームセンターCX 24時間テレビ 有野課長が〇〇を救う!?!」

Movie 映画

本年度上期は、第81回米アカデミー作品賞ほか8部門を受賞したインド映画「スラムドッグ\$ミリオネア」が興収13億円、霊峰劔岳の大自然とそれに挑む人間の姿を余すところなくスクリーンに映し出した「劔岳 点の記」が興収26億円、フジテレビ開局50周年企画として全編イタリアロケを敢行した超大作「アマルフィ 女神の報酬」が興収36億円、さらに忠犬ハチ公の物語をハリウッドでリメイクしたフジテレビ開局50周年企画「HACHI 約束の犬」が興収20億円を記録するなど、多様な観客層に支持されるヒット作品群を提供し、話題に事欠かない半年になりました。



「アマルフィ 女神の報酬」
©2009フジテレビジョン／東宝／電通
／ポニーキャニオン／日本映画衛星放送
／アイ・エヌ・ビー／FNS27社

Event イベント

フジテレビ開局50周年企画、夢のスーパーサーカス第8弾!“シルク・ドゥ・ソレイユ”最大のツアーショー「コルテオ」は東京・名古屋・大阪公演と大成功を収め、引き続き東京凱旋・福岡・仙台公演も好調に推移しております。また、この夏リニューアルした社屋イベント「お台場合衆国」、夏休みファミリーフェスティバル「大鉄道博」、「トリノ・エジプト展」が大人気だったほか、プロデュースイミューズ「ジェーン・エア」、観客参加型の「ドラムストラック」、映画の舞台化「ドラムラインLIVE」、日本初、ファン待望の「ベリーダンス・スーパースターズ・ジャパンツアー」などが好評を博しました。



『トリノ・エジプト展』

Digital Content デジタルコンテンツ

本年度のデジタルコンテンツ事業は、携帯電話やパソコンなどを対象に、多様なコンテンツを提供し、更なる拡大を続けています。

映像配信サービス「フジテレビOn Demand」では、地上波の人気番組を配信する「いつでもTVどこでもTV」のコンテンツがますます充実し、ドラマ「救命病棟24時」や人気バラエティ「爆笑レッカーベットの」などを中心に、配信数を大きく伸ばしました。

また、携帯公式サイトでは、総合サイト「フジテレビで〜す」や、バラエティ番組に連動した「フジバラエTV」、着メロ・着うたの「フジメロ」など、約20の有料サービスを提供しており、いずれも好調で、収益に大きく貢献しました。

また、会員登録システム「フジテレビID」の登録数は140万件を超え、アナウンサーによる情報発信サービス「アナウンスマガジン」を始め、フジテレビIDを利用した各サービスは、大きく会員数を伸ばしています。



『アナウンスマガジン』

Rights Business ライツビジネス

映像ソフト事業はDVD市場低迷の中、「風のガーデン」「メイちゃんの執事」「帰ってこさせられた33分探偵」等のドラマDVD、「笑う犬2008秋」「すべらない話シリーズ」等のバラエティDVDのヒットに加え、「オレたちひょうきん族」「愛しあってるかい!」等の開局50周年記念DVDも堅調に推移しました。

商品化その他ビジネス関連では、「めっちゃイケてるッ!」、「はねるのトビら」、「めざましテレビ」、「サザエさん」、「ヘキサゴンII」、「プザー・ビート」等の関連商品の売り上げが好調に推移し、夏イベント「お台場合衆国」でも大きな収益を上げたほか、修学旅行生向け職業体験プログラム「フジテレビのお仕事」や、愛犬家向けサイト「みんなのわんこ」などの新ビジネスもスタートしました。



『メイちゃんの執事DVDBOX』

Radio ラジオ

ニッポン放送は7月15日に開局55周年を迎えました。ナイター中継「ショウアップナイター」を始め各レギュラー番組がリスナーの高い支持を得る中、開局55周年を記念した特別番組や関連イベントを多数実施しました。中でも、9月13日・14日の2日間、東京国際フォーラムで開催した開局55周年コンサート「オールナイトニッポン歌伝説」と「番組一押し!有楽町歌伝説」は、各番組のパーソナリティや縁あるアーティストたちが一堂に会したニッポン放送ならではのビッグイベントとなり、大好評を博しました。



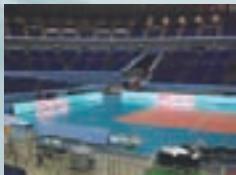
『番組一押し!有楽町歌伝説』

Production

制作グループ

(株)共同テレビジョンは、テレビ番組ではフジテレビ「火9ドラマ」や深夜のレギュラーバラエティほかBS・CSでも数多くの番組制作を展開しました。映画部門では、「守護天使」ほか計4作品を手がけ、中でも「ぼくとママの黄色い自転車」は、親子の絆と深い愛情を描いた感動作として、文部科学省選定作品になりました。DVD事業では引き続き、地球環境に配慮した取組を行っています。

『ぼくとママの黄色い自転車』
©2009『ぼくとママの黄色い自転車』製作委員会



電子看板「アリナード」

(株)フジクリエイティブコーポレーションは、メディアをとりまく環境変化の中から生まれるニーズを咀嚼し、精力的に取り組んでいます。番組制作では、フジテレビのレギュラー番組「ごきげんよう」や、単発制作の「逃走中SP」等、イベント関係では、「お台場合衆国」、「世界柔道」等やLEDを駆使した電子看板「アリナード」が高い評価を受けています。また、オンデマンドの権利処理や素材編集、HDプリント業務等幅広い活動をしています。

(株)フジアールは、テレビ番組では「救命病棟24時」や「ホンネの殿堂!! 紳助には分かるまいっ」等、イベントでは「お台場合衆国」や「コルテオ」等、映画では「ライアーゲーム ザ・ファイナルステージ」等で、美術全般をプロデュースしました。また、米国ABCネットワークのバラエティ番組「Japanese Game Show MAJIDE 2」等の美術を担当し、グループ外にも積極的に営業展開しました。

(株)八峯テレビは、CS・BS放送を含めた幅広い放送分野における、技術部門と制作部門を担当しています。また、各種イベントの企画や運営など、多岐にわたる業務を行い「総合プロダクション」として高い評価を受けております。番組制作ではハイビジョン中継車を所有し、クオリティーの高い映像・音声を提供しています。近年、アメリカやフランス等海外メディアからの受注も数多くあります。

(株)フジライティング・アンド・テクノロジーは、フジテレビの番組を中心に照明技術の提供を行っています。「コルテオ」や「お台場合衆国」などのイベントのほか、「サマヨイザクラ」、「オトメン(乙男)」や「救命病棟24時」等のドラマの照明技術の提供を行っています。また、外部事業では米国ABCネットワークのバラエティ番組「Japanese Game Show MAJIDE 2」やホテル事業等の照明技術、スカパーJSATの放送送出支援業務等を行いました。



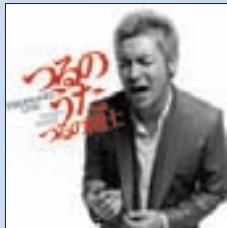
「Japanese Game Show MAJIDE 2」



(株)八峯テレビ「ハイビジョン中継車」

Video & Music

映像音楽グループ



つるの剛士
『つるのうた』

(株)ポニーキャニオンは、音楽部門では、「クイズ・ヘキサゴンII」で人気となった、つるの剛士のカバーアルバム「つるのうた」や「つるのおと」がヒットし、KREVAのオリジナルアルバム「心臓」もチャートインしました。また、アニメ「けいおん」の劇中キャラクターのCDや音楽配信が大ヒットしました。映像・映画部門では、トム・クルーズ主演の「ワルキューレ」が健闘し、収益に貢献しました。

(株)フジパシフィック音楽出版は、シングルでは、人気ドラマ「メイちゃんの執事」主題歌：ROCK' A' TRENCH(ロッカ・トレンチ)の「My SunShine」や、「BOSS」主題歌：Superflyの「My Best Of My Life」などがヒットを記録しました。また、アルバムでは、BONNIE PINKの10作目のオリジナルアルバム「ONE」や、当社管理楽曲を多数収録した、つるの剛士のカバーアルバム「つるのうた」などがヒットし、邦楽部門の売上を支えました。



ROCK' A' TRENCH
(ロッカ・トレンチ)
『My SunShine』

生活情報グループ



「楠田枝里子のいいものプレミアム」

(株)ディノスの通販は、テレビ事業とインターネット事業が売上に伸ばしています。特にテレビ事業は、昨年度の好調を維持しながら、9月28日から「楠田枝里子のいいものプレミアム」としてリニューアルし、更にパワーアップいたしました。また、テレビ事業と連動したカタログやインターネットでのメディアミックスが功を奏し、特に美容健康を中心に大きなヒット商品が生まれました。ファッションではパリ発のブランド「ダニエルエシュテル」を今秋より展開し、上質で洗練されたスタイルが好評を博しています。



(株)サンケイリビング新聞社は、女性向けフリーペーパーの発行を軸として活動する「総合女性マーケティング企業」です。839万部を発行する「リビング新聞」、今年創刊25周年を迎えたOL向け「シティリビング」、幼稚園児とその母親向けの「あんふあん」

「リビング新聞」

Advertising

広告グループ

急速に変化する広告業界の環境に適応するために、4月30日、(株)クオラスは広告業界で業歴の長い協同広告(株)を子会社としました。協同広告(株)の長い業歴で培われたスキル・ノウハウを共有し、(株)クオラスの提案力を強化していくとともに、「フジ・メディア・ホールディングスのネットワーク」や「エンタテインメント分野におけるサービスやネットワーク」を活かしていくことで、シナジーを発揮していきます。

※写真は、フジテレビ・ポニーキャニオン・京風とまとと共同制作したフラッシュアニメコンテンツ「NAKED WOLVES」。そのキャラクターを協同広告含めた顧客企業の販促にも提案し、展開中。



「NAKED WOLVES」

等、各メディアは厳しい環境の中で健闘しました。また昨年11月に開始した携帯サービス「シュフモ」はすでに登録会員37万人を突破し、iモード公式サイトにもなりました。さらに5月25日、9月25日、1月25日を「主婦休みの日」として日本記念日協会に登録するなど、女性の心を捉える様々な活動を続けています。

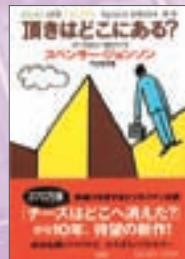
(株)セシールは、7月からフジ・メディア・ホールディングスグループの一員となりました。中核事業である通信販売事業では、消費者の購買意識の変化に対応するため、機能・価格・素材などの商品特徴をわかりやすく打ち出した重点商品の積極的な展開や、カタログ送付効率の最適化等の重点施策を着実に実行しました。また、ネットマーケティングでは、価格訴求型のネット限定キャンペーン、ネット限定商品の拡充、ユーザビリティの改善などお客様の利便性向上に努めるとともに、9月には20歳代をターゲットにした低価格のファッションブランド「アニタ・アレンバーグ」を立ち上げるなど、新規事業からの収益拡大も目指しています。



「アニタ・アレンバーグ」

Others 出版・情報・その他グループ

(株)扶桑社は、フジテレビの番組「笑っていいとも!」との連動本「私服だらけの中居正広増刊号〜輝いて」(定価370円)を8月12日に出版しましたが、発売直後から急速な売行きを見せ、累計発行部数は56万部(9月30日現在)に達しました。また、発刊以来の累計発行部数が370万部となっている「チーズはどこへ消えた?」の著者であるスペンサー・ジョンソンの久々の新作、「頂きはどこにある?」(定価980円)が9月7日に出版されました。本作は人生における「山と谷」を自在に操る秘訣を説く自己啓発寓話で、前作に引続き大きな売行きが期待されます。



「頂きはどこにある?」

(株)フジミックは、景気鈍化によるIT投資の抑制傾向がみられる厳しい市場環境を打破すべく様々な投資を行っています。特に日進月歩する最先端技術への研究開発投資や独創的な業務パッケージの開発、また、それらを担う創造性豊かな人材育成への投資等、将来に向けた多岐に渡る対策・準備に積極的に取り組んでいます。同時に、既存技術の応用や新しいビジネスモデルの開発・構築にも果敢に挑戦し、来たるべき新時代を見据えた新たな事業展開やサービス提供を通して堅実に収益改善を推進すべく努めてまいります。

(株)フジサンケイ人材センターは、人材派遣、派遣先企業での直接雇用を前提とした紹介予定派遣、転職をサポートする人材紹介などを行っています。また、マスコミを目指す学生に向けて、マスコミの仕事の内容や就職情報を説明する「マスコミセミナー」も開催しています。

CSR 通信

vol.6

Corporate Social Responsibility Report

フジ・メディア・ホールディングスではCSRを、当社およびグループ各社の持続的な成長を確保するための活動と位置づけています。そのため、フジ・メディア・ホールディングスCSR推進連絡会議を定期的開催し、グループ各社のCSR情報を共有するとともに、共通のテーマを設けて活動しています。

環境活動

グループ各社共通の環境活動として、本年度からクールビズ統一ポスターを作成しています。各社の社風や事業内容に応じて変化をもたせたポスターを社内に掲示し、楽しく環境問題への啓発を行いました。冬季のウォームビズでも、同様の活動を続ける予定です。



グループ各社の主な環境活動

7月にCSR推進本部を新設した㈱ディノスでは、第6回を迎える「寄付つきクーポン」連動の「エコクイズ」企画を実施し好評を博しています。9月末現在で1万人を超える方に参加いただき、お客様と一緒に取り組むエコ活動の輪を広げています。また、9月から「エコポイントの交換商品提供事業者」としてエコポイントをディノスの商品と交換できるようになりました。エコポイントをお持ちの皆様がディノスの対象商品と交換した場合、ポイントの一部（0.5%相当）を国際環境NGO団体に寄付しています。



社会貢献活動

グループ各社共通の社会貢献活動として、本年度から各社のチャリティ募金活動をグループ各社も応援する体制を整えました。6月から2ヶ月間は(株)フジテレビジョンが主幹となりFNSチャリティキャンペーンの募金箱を各社に設置。ユニセフを通じて、2009年度の支援国である西アフリカのシエラレオネ共和国の子どもたちを支援するお手伝いをしました。2ヶ月間でグループ各社の社員・スタッフから集まった募金は、総額90,648円。この活動は、今後も継続して行う予定です。



グループ各社の主な社会貢献活動

(株)エフシージー総合研究所では、2007年に食に関する社内プロジェクトを立ち上げ、子どもから大人まで幅広い層に向けて健康に役立つ情報を発信しています。子どもたちを対象にした食育プロジェクト「いっぽんどっこの会」では、子どもたちに「いいうんち」を出すことの大切さを楽しく理解してもらおうと、「どっこくん」というキャラクターをつくりました。お腹によい食材の選び方や食べ方など、楽しみながら学んでもらうために、出前授業や食育イベントなどを行っています。(株)エフシージー総合研究所では、この食に関わる社会貢献活動を産・官・学と協力して幅広く展開していきたいと考えています。



40th Anniversary

彫刻の森美術館
THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM



彫刻の森美術館 40周年

1969年、フジサンケイグループは国際観

光地として世界にも知られる箱根に、日本で初めての野外美術館となる彫刻の森美術館を開館しました。ロダン以降の近・現代彫刻の重要な作品

群を所蔵するとともに、1984年にはピカソ作品300点あまりを順次公開するピカソ館を併設するなど次々に話題を提供してきました。

彫刻の森美術館は、フジ・メディア・ホールディングスグループ各社を含むフジサンケイグループの支援の下、運営されています。そして、フジサンケイグループの芸術に対する熱意と国際社会における役割を象徴するものとなっています。

色彩豊かなネットの中に入り、体全体で作品を感じることができます。

第二弾は、開館記念日となる8月1日に完成したネットの森からピカソ館をつなぐ見学ルートを設置です。これにより、来館者は館内全体を周遊できるようになりました。また屋外エレベーターも設置され、バリアフリー化も図られています。

彫刻の森美術館が開館して40年、その間の美術界の変化はめまぐるしく、多くの人々が美術というものに関心を抱き、その良さや価値を理解するようになってきています。

彫刻の森には年間約40万人の方々を訪れ、日本ではもちろん世界でもユニークな美術館として親しまれています。



1969年の開館以来、日本初の野外美術館として親しまれている彫刻の森美術館は、本年8月1日に開館40周年を迎えました。この周年事業の一環として館内のリニューアルを順次進めています。

その第一弾として、5月2日に「ネットの森」がオープンしました。米松の大断面集成材約580本を用い、釘を使わない日本古来の組木による工法で製作されたドーム型パビリオンは、手塚貴晴・由比夫妻が設計しました。内部に取り付けられた長さ15m、幅10mの巨大なネット作品は、造形作家の堀内紀子氏がナイロン原糸の染色からネットの手編みにいたるまで、1年あまりをかけて制作したものです。プレイ・スカルプチャー（遊戯彫刻）として、子どもたちが

連結財務諸表

》 連結貸借対照表 (単位：百万円)

	当第2四半期 連結会計期間末 平成21年9月30日現在	前連結 会計年度末 平成21年3月31日現在
資産の部		
① 流動資産	311,397	294,369
② 固定資産	412,356	389,153
有形固定資産	168,595	166,652
無形固定資産	53,740	45,851
投資その他の資産	190,019	176,649
資産合計	723,753	683,523

① 流動資産

連結会社の増加に伴い、受取手形及び売掛金やたな卸資産などが増加したことによって、前期末比170億27百万円の増加となりました。

② 固定資産

連結会社の増加に伴い、有形固定資産と無形固定資産が増加するとともに、投資その他の資産において投資有価証券の時価評価額が増加したことなどにより、前期末比232億2百万円増加となりました。

	当第2四半期 連結会計期間末 平成21年9月30日現在	前連結 会計年度末 平成21年3月31日現在
負債の部		
③ 流動負債	139,452	121,613
④ 固定負債	122,593	108,514
負債合計	262,046	230,127
純資産の部		
株主資本	458,019	459,273
資本金	146,200	146,200
資本剰余金	173,664	173,664
利益剰余金	153,659	154,913
自己株式	△15,505	△15,505
評価・換算差額等	△2,399	△10,482
其他有価証券評価差額金	△318	△7,782
繰延ヘッジ損益	△34	—
土地再評価差額金	357	358
為替換算調整勘定	△2,403	△3,057
新株予約権	47	—
少数株主持分	6,039	4,604
純資産合計	461,707	453,395
負債・純資産合計	723,753	683,523

③ 流動負債

連結会社の増加に伴い、支払手形及び買掛金や短期借入金などが増加したことによって、前期末比178億39百万円の増加となりました。

④ 固定負債

連結会社の増加に伴い、退職給付引当金や長期借入金などが増加するとともに、長期繰延税金負債が増加したことなどによって前期末比140億79百万円の増加となりました。

》連結損益計算書 (単位: 百万円)

	当第2四半期 連結会計期間	前第2四半期 連結会計期間
	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
売上高	280,774	281,975
売上原価	196,237	189,430
売上総利益	84,536	92,544
販売費及び一般管理費	81,798	79,902
営業利益	2,738	12,641
営業外収益	3,307	4,689
営業外費用	1,455	1,918
経常利益	4,590	15,412
特別利益	2,337	209
特別損失	716	1,824
税金等調整前四半期純利益	6,211	13,797
法人税、住民税及び事業税	3,063	7,505
法人税等調整額	146	511
少数株主利益	△22	123
四半期純利益	3,023	5,657

》連結キャッシュ・フロー計算書 (単位: 百万円)

	当第2四半期 連結会計期間	前第2四半期 連結会計期間
	平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	平成20年4月1日から 平成20年9月30日まで
営業活動による キャッシュ・フロー	2,774	38,203
投資活動による キャッシュ・フロー	△2,701	△14,793
財務活動による キャッシュ・フロー	770	△5,138
現金及び 現金同等物に係る換算差額	437	△1,749
現金及び 現金同等物の増減額	1,280	16,522
現金及び 現金同等物の期首残高	116,598	80,171
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	45	913
現金及び現金同等物の 四半期末残高	117,925	97,608

》連結株主資本等変動計算書 (単位: 百万円)

平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
平成21年3月31日残高	146,200	173,664	154,913	△ 15,505	459,273	△ 7,782	-	358	△ 3,057	△ 10,482	-	4,604	453,395
当第2四半期 連結会計期間中の変動額													
剰余金の配当			△ 4,145		△ 4,145								△ 4,145
四半期純利益			3,023		3,023								3,023
連結範囲の変動による増加高			△ 130		△ 130								△ 130
株主資本以外の項目の 連結会計期間中の変動額(純額)						7,464	△ 34	△ 0	654	8,082	47	1,434	9,565
当第2四半期 連結会計期間中の変動額合計	-	-	△ 1,253	-	△ 1,253	7,464	△ 34	△ 0	654	8,082	47	1,434	8,311
平成21年9月30日残高	146,200	173,664	153,659	△ 15,505	458,019	△ 318	△ 34	357	△ 2,403	△ 2,399	47	6,039	461,707

主要各社業績

(単位：百万円)

		当第2四半期連結累計期間	前第2四半期連結累計期間
(株)フジテレビジョン 	売上高	163,918	176,157
	営業利益	3,119	10,328
	経常利益	3,377	14,682
	四半期純利益	1,486	5,129
(株)ニッポン放送 	売上高	10,106	11,153
	営業利益	101	331
	経常利益	111	406
	四半期純利益	43	191
(株)ポニーキャニオン 	売上高	25,634	27,974
	営業利益	68	1,030
	経常利益	234	1,256
	四半期純利益	△138	566
(株)ディノス 	売上高	27,648	29,139
	営業利益	17	△263
	経常利益	△4	△258
	四半期純利益	58	△306
(株)クオラス 	売上高	16,119	15,018
	営業利益	△17	△147
	経常利益	△16	△158
	四半期純利益	△17	△171

株主メモ

事業年度 4月1日～3月31日
配当金受領の株主確定日 3月31日及び中間配当を行う場合は9月30日
定時株主総会 6月下旬
株主名簿管理人及び
特別口座の口座管理機関 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
事務取扱場所 みずほ信託銀行株式会社

公告の方法 東京都中央区八重洲1丁目2番1号
外国人等の株主名簿への 株式会社 本店証券代行部
記載・記録の制限等 産業経済新聞に掲載する方法により行います。

当社は、放送法で定める外国人等(①日本の国籍を有しない人、②外国政府又はその代表者、③外国の法人又は団体、④「①から③までに掲げる者」により直接に占められる議決権の割合が総務省令で定める割合以上である法人又は団体)の有する議決権について、①から③までに掲げる者により直接に占められる議決権の割合とこれらの者により④に掲げる者を通じて間接に占められる議決権の割合として総務省令で定める割合とを合計した割合が、議決権の20%以上となる場合には、放送法の規定により、認定放送持株会社の認定が取り消されることとなります。そのため、このような状態に至るときには、放送法の規定に基づき、外国人等からの株式の名義書換請求等による株主名簿への記載・記録を拒否し、又は、外国人等の議決権行使を制限することができるとされています。

お知らせ

○上場株式配当等の支払いに関する「支払通知書」について

租税特別措置法の改正(平成20年法律第23号)により、平成21年中にお支払いする配当金について、配当金領収証にて受け取られる株主様には、支払配当金額や源泉徴収税額等を記載した「配当金支払明細書」をお送りすることとなりました。

「配当金支払明細書」は、租税特別措置法の規定に基づき作成する「支払通知書」を兼ねており、来年の確定申告手続きに合わせて平成21年末～平成22年初にお送りいたしますのでご確認ください。(口座振込を指定されている株主様は、配当金をお受取りの際にお送りしている「配当金計算書」が「支払通知書」を兼ねておりますので、引続き確定申告の際の添付資料としてご使用ください。)

なお、来年以降受け取られる配当金につきまして、証券会社の「源泉徴収あり」特定口座にて、「株式数比例配分方式」を利用し受け取られた場合、特定口座内にて上場株式等の譲渡損失との損益通算が可能となります。詳しくは、お取引の証券会社にお問合せください。

○中間配当決議通知はがきの郵送取止めについて

中間配当に関するご案内につきましては、昨年まで、株主の皆様へ「中間配当に関する取締役会決議のお知らせ」と題したはがきをお送りすることにより行ってまいりましたが、本年より、同はがきの郵送を取り止め、当社ホームページの掲載によりご案内させていただくことといたしました。何卒ご了承いただきますようお願い申し上げます。

株式に関するお手続き

○株式に関する各種お手続き(住所変更、配当金受領方法の指定など)は、株主様が口座を開設されている証券会社にてお取り扱いしております。詳しくは、お取引証券会社にお問合せください(ただし、郵送物等の発送と返戻に関するご照会と株式事務に関する一般的なお問合せは、株主名簿管理人：下記フリーダイヤルにお問合せください)。

○株券電子化実施前に証券保管振替制度を利用されていなかった株主様の株式につきましては、「特別口座」で管理されております。「特別口座」に関する各種お手続き(証券会社の口座への振替、住所変更、配当金受領方法の指定など)は、従来どおり、みずほ信託銀行株式会社にてお取扱いいたします(同行各支店においても取次ぎを受け付けます)。

なお、「特別口座」の詳細につきましては、下記のフリーダイヤルにお問合せください。

◎フリーダイヤル 0120-288-324

○未払配当金の取次ぎにつきましては、「みずほ信託銀行株式会社全国各支店」又は「みずほインベスターズ証券株式会社本店及び全国各支店」においても受け付けます。

お知らせ

フジ・メディア・ホールディングスホームページ

フジ・メディア・ホールディングスのホームページ上に「IR情報」が掲載されています。最新のIRニュースや決算情報などがご覧いただけます。

<http://www.fujimediahd.co.jp/index.html>



》株式の状況

発行可能株式総数	9,000,000株
発行済株式の総数	2,364,298株
株主数	71,746名

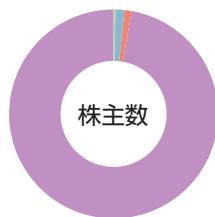
(注)発行済株式の総数には自己株式及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)が含まれております。

》大株主

株主名	持株数 (株)	比率 (%)
東宝株式会社	183,221	7.75
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	105,590	4.47
シービーニューヨークオービスファンズ	96,094	4.06
シービーニューヨーク オービス エスアイシーアーヴィー	95,994	4.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	81,635	3.45
株式会社文化放送	77,920	3.30
株式会社エヌ・ティ・ティ・ドコモ	77,000	3.26
関西テレビ放送株式会社	54,461	2.30
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (退職給付信託口・株式会社電通口)	46,500	1.97
住友商事株式会社	40,000	1.69

(注)上記のほか当社所有の自己株式61,202株があります。

》所有者別株式分布状況



政府及び地方公共団体	1名	(0.0%)
金融機関	126名	(0.2%)
金融商品取引業者	38名	(0.1%)
その他の法人	549名	(0.8%)
外国法人等	460名	(0.6%)
個人その他	70,572名	(98.4%)



政府及び地方公共団体	2株	(0.0%)
金融機関	513,332株	(21.7%)
金融商品取引業者	44,696株	(1.9%)
その他の法人	755,729株	(32.0%) (注1参照)
外国法人等	460,619株	(19.5%) (注2参照)
個人その他	589,920株	(25.0%) (注3参照)

(注1)「その他の法人」には、証券保管振替機構(失念株式)名義の株式が403株含まれております。

(注2)放送法で定める外国人等の有する議決権数の当社議決権総数に占める割合は19.99%です。

(注3)「個人その他」には、自己株式61,202株及び放送法に基づき名義書換を拒否した株式(外国人持株調整株式)179,069株が含まれております。

(注4)比率は小数第2位を四捨五入しております。



©2009 フジテレビ・講談社・アミューズ・東宝・FNS27社



「のだめカンタービレ 最終楽章」

“のだめ”ファンの続編への期待感が高まる中、待望の映画化が決定しました。「とても1本分では描ききれない!」ということで、2部作での公開となります。

お正月から春へと、日本全国に“のだめ旋風”を巻き起こします。

2009年 12/19 & 2010年 4/17公開

いち押し!

映画・ドラマ情報



フジテレビ開局50周年記念ドラマ

「不毛地帯」

累計525万部突破の山崎豊子による超ベストセラー小説を、唐沢寿明主演でドラマ化。終戦後、11年もの長きにわたりシベリアに抑留された経験を持つ主人公が、その後再びビジネスという“戦場”に身を投じ、戦争体験という過去との葛藤を抱えながら、世界を相手に戦う様を描いた物語。

フジテレビ系にて毎週木曜夜10時から放送中



Cover
表紙について

「お台場合衆国」

7月18日から8月31日まで45日間にわたりフジテレビ社屋及び周辺エリアで開催。主な番組をイベントコンテンツとして展開し、延べ425万人のお客様にご来場いただき、この夏のお台場は家族連れや若いカップルであふれました。